

演題番号: P3-2

筆頭名: 鈴木慎太郎

筆頭所属名: あそか病院 内科(呼吸器・アレルギー)

共著者名:

鈴木 慎太郎 1)2)、足立 満 2)

共著者所属:

1)あそか病院 内科(呼吸器・アレルギー)2)昭和大学医学部 内科学講座 呼吸器・アレルギー内科

演題名: 当施設で経験した加水分解コムギ含有石鹼の使用後に発症した小麦アレルギー症例の臨床的特徴

【背景・目的】近年、本邦で社会問題となっているアレルギー疾患として、加水分解コムギを含有した石鹼で感作された小麦アレルギーが挙げられ、苦痛を訴え受診する患者が後を絶たない。同病態は石鹼の使用で経皮感作され、小麦の経口摂取により発症する特殊な食物アレルギーであることが知られている。【方法】加水分解コムギ含有石鹼の使用後に何らかのアレルギー症状を認め、精査の目的で平成 23 年 11 月から当施設に受診した患者を対象とした。問診内容やプリックテスト、血液検査の結果などについて調査・検討した。【結果】検査の結果、同病態と診断した 8 例全員が女性だった (平均年齢 53.0±13.5 歳)。基礎疾患として重症のアレルギー疾患を有する率は低かったが、ペット飼育者が多かった。診断例の全例が小麦依存性運動誘発アナフィラキシーを発症していた。石鹼の使用箇所が顔面や手など局所だけの症例では、洗顔・手洗い後の症状が局所に留まっても、食物アレルギーの際には重篤な全身症状を呈した。抗原特異的 IgE 検査では、 ω -5 グリアジンおよびグルテンは全例陰性、小麦陽性は 2 例だった。プリックテストでは、全例で加水分解コムギが陽性を示したが、小麦で陽性を示した症例は 4 例で、加水分解コムギに比べて皮膚の反応が微弱だった。石鹼の使用を中止後に小麦アレルギーの症状が軽快した症例は 4 例、アナフィラキシーなどの再発を認め改善しなかった症例も 4 例だった。【考察】香粧品、美容製品を使用する機会の多い中年女性が患者の殆どを占めていた。実地診療で汎用される小麦、グルテン、 ω -5 グリアジンの抗原特異的 IgE 検査や小麦のプリックテストだけでは検出・診断できない症例が約半数以上を占めた。小麦摂取後に発症した食餌依存性運動誘発アナフィラキシーや眼瞼浮腫を診た際には、患者自身での購入歴がなくても知人からの贈答品や試供品として短期間使用していた症例もあり、加水分解コムギを含有した香粧品や洗剤の使用歴について詳しい問診を要する。同病態が認知されてからまだ数年しか経過しておらず、患者の治療予後や合併症などについては長期間の経過観察を要する。